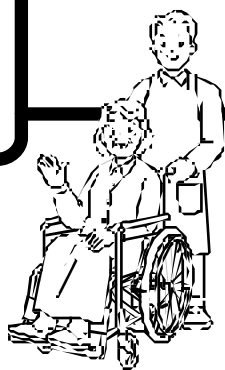


ヘルパーステーションだいとう だより

No.9 2005年4月号発行



6年目の介護保険

ヘルパーステーションだいとう
所長 田中洋三

平成12年から始まった介護保険も丸5年を経て、6年目に突入しました。17年度は改変時期に当たり、いくつかの制度の見直しが行われています。振り返って、この5年間に介護保険のもたらしたものを考えてみましょう。

保険料、税金、一割の利用者負担で成り立っている介護保険は集めたお金を介護保険のみに使用される点、利用は措置から利用者の選択へと変わりました。以前に比べて使いやすくなった介護のサービスは、これまでサービスを提供していた社会福祉法人や医療法人に加えてNPO法人や民間企業も参入しています。在宅のサービスの多くは一部過剰気味に数量的に揃ってきて利用しやすくなり、自己決定も行いやすくなりました。量的に不足とされている施設サービスも徐々にではありますが個室が原則で整備されつつあります。また、利用者の要望を叶えつつ専門的なケアを提供するためにケアマネジャーの制度も創設されました。

一方で課題として、措置時代と違って福祉サービスが利益に結びつき、また、利用料の割安感から事業所と利用者双方からの必要以上の過剰な利用が散見され、自立の阻害と保険料などの費用のむだな拡大が取りざたされています。

以上が背景の一つとなって17年度からの改正が準備されつつあります。箇条書きにしてみますと、

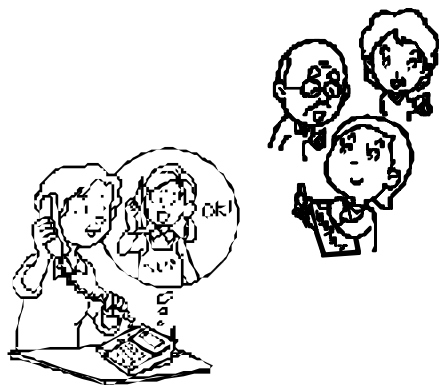
1. 予防重視型システムへの転換
 - (1) 新予防給付の創設
 - (2) 地域支援事業の創設

2. 施設給付の見直し

- (1) 居住費・食費の見直し
- (2) 低所得者に対する配慮

3. 新たなサービス体型の確立

- (1) 地域密着型サービスの創設
- (2) 地域包括支援センターの創設
- (3) 居住系サービスの充実



4. サービスの質の確保・向上

- (1) 情報開示の標準化
- (2) 事業者規制の見直し
- (3) ケアマネジメントの見直し



5. 負担のあり方・制度運営の見直し

6. 被保険者・受給者の範囲（附則検討規定）

7. その他

などです。詳細については改めてお知らせする機会もあろうかと思いますが、役所からの広報や報道にも関心をお持ちください。

改正の動機には財政難が大きな陰を落としています。措置時代とは比べものにならないくらい利用しやすくなった反面、不適正な利用、自立を阻害する利用が気になります。

高齢で生活障害を持ちながら日常生活を継続してゆくには段々とやりにくい世の中になってきています。

利用者が昔と違って寿命が延びて、高齢者、超高齢者である。家族の結びつきが弱くなって、高齢者を支える力も弱くなっている。いわゆる少子高齢化の影響です。加えて、自然発生的な地域社会の支え合いが希薄になってきている。国や自治体の財政が困窮化している。

そのような時代背景の中で、たとえ身体が不自由であっても尊厳ある生活、言い換えればあるがままの自分で日常生活を継続するには、今後とも社会的支援が必要で、介護保険の意義は皆が認めるところでしょう。介護保険は生活のすべてを支えるわけではありませんが、老後の大事な武器として大切に考える必要があります。必要に応じて改正が行われますが、常に適正に利用し、徐々に介護保険が豊になっていくよう、当事者であるサービス提供者の私たちとともに皆様利用者自身もご協力をお願いします。

車椅子介助の ワンポイント



これからの季節は暖かい日も増え、桜花満開の好季節になりお出かけには快適な時期です。家族と外出することで気分転換にもなりますので車椅子を使用しながら外出される介護者の方に一言アドバイスを載せています。

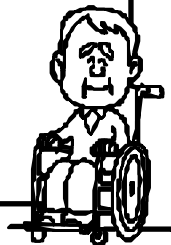
車椅子の扱い方

- ・急に車椅子を動かすとビックリするため介助する時は、必ず声かけをしてから行います。
- ・車椅子に乗せる前にアームレスト（足置き）は上がっているか、ブレーキはかかっているか、タイヤには空気が入っているかの確認は必要です。
- ・車椅子介助を行う時は前後左右に注意し、利用者にも注意しながら、ゆっくり押していきます。
- ・室内で車椅子介助を行う時は、スムーズに移動が出来るように廊下や室内に物を置かない様にしましょう。



外出時の注意点

- ・介護する時に不快や不安を抱くことにより今後の外出や生活面の行動を嫌がることとなります。（砂利道は平坦な道より振動が激しいので注意しながら押すようにしましょう。）
- ・坂道の時には上りは前向き、下りは後ろ向きにすることで恐怖心を軽減できます。
- ・長時間車椅子に乗っているとお尻が痛くなるため座布団などを敷いておくと痛みが軽減されます。
- ・帽子、寒い時は防寒着又は膝掛け、飲み物などを忘れずに持っていきましょう。



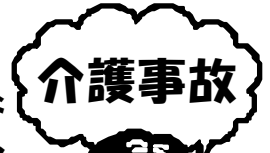
車椅子介助のワンポイント

地震対策

自然災害はいつ、どこで起こるのかわかりません。特に、地震は、台風や豪雨によって発生する風水害と違い、被害がでるまでに時間的な余裕がありません。

いざというときにあわてず、被害を最小限に食い止めるため日頃から備蓄品や非常持ち出し品を準備、又家具の置き場所などに工夫するなどの備えをしておきましょう。

ヘルパーミーティング



介護の現場では「事故が起こらないように、事故を起こさないように」と配慮しながら介護サービスに取り組んでいます。しかし介護現場ではヒヤリとしたり、ハッとしたりを体験し、なかには介護事故になってしまったこともあります。

当事業所の事例から介護事故になった原因と今後の対策について考えるため2月27日のヘルパーミーティングで介護事故についてグループワークを行いました。



生活援助時介護事故

1

昼食を作りながら洗濯をしていたら鍋を焦がしてしまった。

<事故原因>
火元から離れる時、ガスを点けたままにしていた。
<対策>
火元から離れる時は消し忘れの確認を怠らないようにしましょう。

2

食器を拭いている時に皿を落としてしまった。
(洗っている時に手が滑り食器を割ってしまった。)

<事故原因>
洗剤を使っていたため手が滑った。
<対策>
食器を洗う時は扱い方に十分気を付け配慮を怠らないようにしましょう。

3

調理している時にガスレンジのそばにあった布巾とタッパーを焦がしてしまった。

<事故原因>
火の近くに燃えるものを置いていた。
<対策>
燃えやすい物を置かないようにしましょう。

【介助のポイント】

物品を破損する事故では利用者にとっては精神的ダメージとなる場合があります。一般的に売られている食器であっても利用者にとっては宝物かもしれませんので粗雑に扱わないようにしましょう。

体位交換時介護事故

7

ベッドのコントローラーがヘルパーの身体に当たりベッドが上下に動いてしまった。

<事故原因>

ベッド周囲の安全確認をせずに業務してしまった。

<対策>

ベッドが誤って動くことで利用者の手や足が柵に挟まってしまふことがあるため介助時にはコントローラーは身体が当たらないところに置いておくようにするとよいでしょう。

2

おむつ交換後に利用者がベッドからずり落ちていた。

<事故原因>

ベッド柵を戻し忘れていた。

<対策>

必ずはずした物は元に戻しベッド周囲の確認を怠らないようにしましょう。



【介助のポイント】

- ・ いつも安楽・安全な体位が保てるよう、身体的位置をかえて一部分に体重がかからないようにしましょう。
- ・ 利用者に残っている機能(残存機能)を引きだし、自立を促しながら利用者のペースに合わせて介助を行いましょ。
- ・ 床ずれの有無を確認し、姿勢を保持しやすいようにクッションやバスタオルなどを利用する事もあります。
- ・ シーツやパジャマは床ずれ予防のためにもしわを作らないように注意しましょう。

食事介護事故

7

食事摂取は自立しているが、かき込みやすいため、むせ込むことが多い。

<事故原因>

食事形態・食物の大きさに配慮が足りなかった。

<対策>

利用者個々の状態に合う食材・調理法、又トロミを使用する等の工夫により対応しましょう。

2

口腔内に食べ物が残っていたまま口を開けたために介助時にむせ込んだ。

<事故原因>

飲み込みを確認せずに介助した。

<対策>

介助時、口腔内の食べ物をしっかり飲み込まれた事を確認し、利用者のペースに合わせてゆっくり介助しましょう。

【介助のポイント】

- ・ 目覚めの時は意識の有無を確認し、はっきりしてから介助しましょう。
- ・ 飲み込み易い、誤嚥の起こりにくい姿勢を保持しましょう。（安楽体位を保つ事が大切でしょう。）
- ・ 熱い汁や熱い食べ物は火傷することもあるので人肌ぐらいに冷ましてから介助を行うとよいでしょう。
- ・ 利用者のペースに合わせて介助を行いましょ。
- ・ 口腔内の不潔は食欲不振や肺炎の原因ともなるので食後には口腔ケアを行いましょ。（口腔内を清潔にすることは気分を爽快にし、食欲を増進させる事にもつながります。）



入浴介護事故

1

浴槽内で立ち上がる時、手すりを持っていたが体のバランスを崩し壁に頭をぶつけてしまった。

<事故原因>

ヘルパーは側にいたが確認を怠り、立位時にバランスを崩した。

<対策>

湯の中ではバランスがとりにくいため、介助する時には利用者の移動が妨げにならない様に腰を支えると安定するでしょう。

2

シャワーチェアから立ち上がる時に足が滑ってしまった。

<事故原因>

滑りやすいタイルの上にシャンプーや石鹸の泡が残っていた。

<対策>

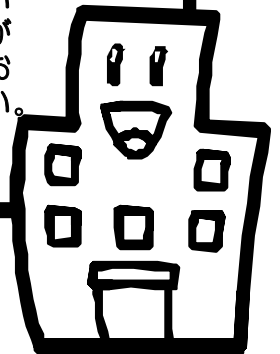
滑りやすい場所での入浴介助では、足元は特に危険です。石鹸の泡などは十分に洗い流し動き易い状況の確認をしてから立位をとりましょう。



【介助のポイント】

- ・ 入浴前に全身の様子をみて健康チェックする事が大切でしょう。
- ・ 部屋から浴室までの安全を確認する事が大切でしょう。（つまずきそうなものは置かないようにしましょう。）
- ・ 冬の入浴は浴室内と浴室外の温度差に注意しましょう。（入浴前に熱いシャワーを出し、浴室内温度を上げておく方法もあります。）
- ・ 入浴後の保温と水分補給は忘れないようにする事が大切です。

当事業所では幸いにして大きな事故に至る介護事故は発生していませんが、これからもヒヤリ・ハッとをヘルパーひとりひとりが意識し事故防止に取り組みなくてはならないと実感しております。大きな事故を防ぐ為、皆様からも良いアドバイスがあればぜひお知らせ下さい。



ヘルパーミーティング

簡単レシピ

キャベツ

この季節に採れる春キャベツは、甘くて柔らかく食べやすいので、食材にキャベツを使った簡単レシピを一度試してみたいかがでしょうか。



<キャベツスープ> 1人分

材料 キャベツ 1枚
たまねぎ 1/8個
トマト 1/3個
卵 1個
コンソメスープ1カップ
塩コショウ少々

- ① キャベツは3センチ四方にざく切りにし、たまねぎ、トマトはサイコロ状に切る。
卵は溶いておく。
- ② 鍋にコンソメスープとキャベツ、たまねぎを入れて柔らかくなるまで煮る。
- ③ トマトを加え、もうひと煮たちさせて、塩コショウで味を整え溶き卵を流す。

*冷蔵庫にある余り野菜を加えて、具たくさんにしてもよいです。



<キャベツの煮物> 1人分

材料 キャベツ1枚
人参1センチ分
ツナ缶 1/3缶
めんつゆ(市販)大さじ2

- ① キャベツは3センチのざく切り、人参は短冊切りに切る。
- ② ツナは油を切っておく。
- ③ めんつゆにキャベツ、人参、ツナを入れ柔らかくなるまで煮込む。

(野菜の水分がでるため水は入れなくても良いです。)



・ 私たちの基本理念 ・

私たちは日常生活の支援を通してその人がその人らしくあることを守ります。

ヘルパーステーションだいとう



〒670-0962

姫路市南駅前町66番地 戸田ビル2階

TEL 0792-23-5009

FAX 0792-23-5019

介護保険事業所番号 2874000876